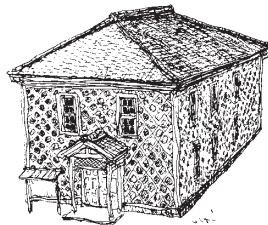


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事（研究担当）

真壁利明 まかべとしあき

オープンイノベーションを生む産学連携

グローバル化が加速し、地球上の地政学的環境を一変させています。先進国で急速に進む技術の拡散は自然の摂理です。新しい科学を興し技術の芽を育て、技術革新でこの流出に対処したいものです。

さて、大学の研究活動は論文や知財のかたちで社会に還元されています。いづれも研究者の重要な使命です。日本では大学の研究を知財化するための環境整備が90年代末に始まりました。現在、知財活動の第三期にある義塾では、研究が知財を生み、この知財をもとに産業界と新しい技術開発が進むかたちのポジットティブフィードバック体制を目指しています。

研究力強化のため、特に、欧米13の研究大学・研究機関と共同研究の実績をもとにさらに深い連携活動に入っています。国内では昨年度に日立製作所と「サイバーセキュリティ研究センター」を、今年度はNITと「超成熟社会創造オープン研究センター」を先導研究センター内に設立しました。長い共同研究の経験を活かし、海外大学や企業の研究者がキャンパスで協働するなかで、研究に加えて高度人材の育成も図ってゆく新し

い体制の整備を進めています。

昨年12月には、慶應義塾の研究者がその優れた知財をもとに起業する道を支援し、その後の起業家をさらに資金で援助する2つの役割を担う(株)慶應イノベーション・イニシアティブ(KII)を設立しています。KIIが大学の研究支援部と連続的で滑らかな支援活動を果たしてゆくことで、研究者の研究を「入り口から出口まで支援」し、オープンイノベーションを生む体制を充実させ、大学発の技術革新に弾みをつけたいと考えています。

地球の持続可能性が問われるなか、人工知能(AI)が新しいパラダイムを拓くことへの期待も増えています。人類はレイバー、ワーカーの時代を経て、柔軟で創造性豊かなプレイヤーを演ずる時代へと変化してゆく可能性があります。記憶をすべてAIに任せるわけにはゆきませんが、AIと共生し創造的プレイヤーとしての生活が今まで以上に社会や個人の人生を豊かにする時代が到来することを期待しています。